

## 令和元年度 経営発達支援事業評価委員会の開催報告

石岡商工会議所

当所では令和元年度に実施した経営発達支援事業につきまして、外部有識者を交えて経営発達支援事業評価委員会を下記の通り開催致しましたので報告致します。

### 記

#### (第1回)

1. 日 時 令和元年10月4日(金) 午後2時50分～午後3時52分
2. 場 所 石岡商工会議所 3階小会議室
3. 出席委員 外部有識者として委嘱した中小企業診断士3名
4. 欠席委員 なし
5. 事務局 専務理事、事務局長、中小企業相談所長 以上3名
6. 内 容

事務局より、「令和元年度石岡商工会議所経営発達支援事業遂行状況一覧（令和元年9月30日現在）」により、今年度の遂行状況について説明。以上の説明及び各委員に毎月送付している当所会報と折込物も含めて、当所の事業について委員から質問及び評価を受けた。各委員からの質問、評価は次の通り。

#### 【質問事項等】

- ・平成28年4月から3年が経過して4年目を迎えだいたい進んでおり、地に足がついた活動をしている印象であり感心している。数字で把握出来る目標については、どういう推移で進捗しているか、今年は前年に比べてどうだったのかが見えづらい。全体の中で占める状況がより明確になると、皆さんの活動が、対外的に説得力があるものになるのではないか。また飲食店マップは大変よい。駅前に集まる場所があれば街は活性化する。選んだ対象もちょうどよい件数。どれもおいしそうで食べに行きたくなるマップ。以上が全体的な感想であり内容に関して特に質問はない。
- ・事業承継のニーズとかは巡回したときにヒアリングしているのか。
- ↳ (回答) ☞基本的に60歳以上の事業主には事業承継ヒアリングシートを活用し、考えるきっかけづくりを昨年から開始している。事業承継に関する悩みは少しずつ出てきている印象であり、何から手を付けてよいかわからないとの声もあり、今後は事業承継支援ネットワークのブロック連携を活用していきたい。
- ・通行量調査等の調査データについては、街の商店に広めて手を打っていき、データを活用する動きをしていただければ良いという感じがした。また指導員の資質向上に関する事項で、エキスパートバンクやよろず支援は具体的にどのようなことをしたのか。
- ↳ (回答) ☞エキスパート派遣に関しては、パソコン関係の相談や法律関係でトラブルになりそうな相談等、専門的なアドバイスが必要なものに、中小企業診断士や弁護士と相談する事業であり、指導員も相談専門家に同席することにより指導員の資質向上にもつなげている。よろず支援については、企業の合併に関する相談で複数回の支援が必要なたためよろず支援を利用。エキスパートは期中1回で運用している。

- ・事業承継に関して、事業主のニーズをヒアリングすることによって今後の対応策が打てる。具体的に巡回して先方の感触はどうか。
- ↳ (回答) ☞ヒアリングシートを活用した巡回はきっかけにはなっているが、そこから先に関してはこれからの印象。後継者がいても家族内の話し合いについてはなされていない状態。後継者がいない事業所は、事業主自身が事業価値を認識しておらず、従業員のの中から後継者を探すことも難しい。M&A 等手法もあまりよい印象がなく、ニーズから具体的なアクションを起こすところまでには至っていない。
- ・商業・商店の事業承継のニーズはどうか。
- ↳ (回答) ☞街中の商店街は身内に後継者がいない。自宅兼店舗が多いこともあり第3者による承継も難しい。アドバイスについても悩ましいところである。
- ・知的資産、企業の持っているバランスシートにない価値にどのようなものがあるのか、事業主に気づいてもらう。M&A についても知的資産に磨きをかけることが必要であり、そのようなことを企業へのアプローチの中で投げかけてほしい。

### 【評価】

- ・地に足がついた活動を感じられるので継続して進めて欲しい。5年間の計画で最終前の年に入っている状況で、どこに落としどころを持っていくのか整理しながら今年度はすすめてほしい。
- ・ほかの商工会議所でも同じようなことをやっているが、石岡商工会議所ならではの良さを打ち出してPRして進めていってほしい。
- ・5年間やった結果としてどういう成果が得られたかというゴールのイメージを作って最終年度は進めてほしい。評価に対しては全く問題ない。このまま続けてほしい。

### (第2回)

1. 日 時 令和2年2月28日(金) 午後2時～午後3時8分
2. 場 所 石岡商工会議所 3階小会議室
3. 出席委員 外部有識者として委嘱した中小企業診断士3名
4. 欠席委員 なし
5. 事務局 事務局長、中小企業相談所長 以上2名
6. 内 容

事務局より「令和元年度石岡商工会議所経営発達支援事業遂行状況一覧（令和2年2月28日現在）」について説明。なお、説明は第1回委員会から変わった部分を中心に説明。その中で今年度実施した「キャスレス決済利用のアンケート」の集計結果を紹介。

次に「令和元年度石岡商工会議所が行った伴走型支援の流れ」をもとに、数字で見る今年度の実績について説明。その中で、経営革新計画認定申請は、申請済は1件であるが申請に向け2件支援している旨説明。

また、第1回委員会での意見に基づき、「平成28年度からの伴走型支援の実績（令和2年2月28日現在）」を作成し、経営発達支援計画全体の進捗状況について説明。

更に「令和元年度経営革新計画フォローアップ調査結果概要」をもとに、当所が支援し経営革新計画認定をうけた企業の計画実施状況と効果、及び経常利益の伸び率、付加価値額の伸び率から見た計画の実績について説明。

以上の説明をもとに、委員から質問及び評価を受けた。各委員からの質問、評価は次の通り。

## 【質問事項等】

- ・5年計画の経営発達支援計画も概ね計画が達成できるもの思われ、経営発達支援計画の活動は一定の成果があったと言っているのでは思う。ナビサイトの進捗状況が3分の1強程度であるが、伴走型支援による個社の活性化と、総体的な人に訴える活動も必要であると思う。また数字的な達成状況は理解出来たが、数字に表れない満足度が分かるとよりよと思った。
- ・創業支援に関し、創業塾の受講者が11名で、その他に14名の創業の方がいたとのことであるが、どう言った内容なのか。またなぜ会議所に相談に来るのか。
- ↳(回答) ☞創業までには至らない相談もあり14名が創業したわけではない。内容としては創業に関する融資の相談が多く、人を雇った場合の手続き等についても相談を受けた。また、創業融資に関しては金融機関に相談に行くと会議所に振られるケースが多く、また市役所に相談に行くと会議所を案内されることもあり、比較的創業に関しては会議所に相談するという雰囲気は地域に多少根付いてきていると思われる。
- ・「キャッシュレス決済利用のアンケート」についてどのような目的があるのか。キャッシュレス化を勧める目的があるのか。
- ↳(回答) ☞そこまでの誘導ではなく、現状の地域の消費動向はどうなっているのかということフラットに情報収集することが目的。事業主がキャッシュレス化を進めるには手数料が負担との声を聴いており、アンケートを取ることで消費者の考えを事業主還元し、今後のキャッシュレス化の判断材料になればと思っている。
- ・経営革新計画認定は減少しているのは何か理由があるのか。また経営革新計画を策定される目的は何なのか。
- ↳(回答) ☞積極的に策定を希望されている事業者は補助金の加点目的が多い。事業計画策定を支援する立場としては、ただ単に計画を策定するだけではなく、県の承認を受けるといったステータスも計画を策定させるためには必要と考えている。経営発達支援計画認定の減少は、会議所との接点の中で比較的コミュニケーションをとれる事業所の取組が一段落したこと、また今年度に関しては事業計画策定支援セミナーの開催時期が遅かったことも年度内申請が減少している要因であると考えている。
- ・事業承継に関して、事業承継ネットワークを有効に活用してほしい。また知的資産承継についても事業主に周知して、事業承継や経営革新につなげて欲しい。
- ・この計画が平成32年に終了するその後の計画について方向性は決まっているのか。
- ↳(回答) ☞経営発達計画自体の大きな変更点として、支援件数ではなく、策定件数が求められている点と個々の事業所により突っ込んだ支援が求められている点がある。より事業所の声と数値を検証していく必要があると考えている

## 【評価】

- ・小規模事業者支援（調査・計画・支援・実績・フォロー・提案）と職員の資質向上、地域全体の活性化3つの大きなカテゴリの中で活動していることを良く抑えて、業務の位置づけをより明確にしていくことが大切かと思う。目的意識を持ち進んでいくことがより結果につながると思うので頑張ってもらいたい。
- ・目標に向かって順調に進んでいると思う。
- ・少ない人数でしっかりと活動されていると感じている。新たな計画の際には、集中と選択、重点項目の質の向上が必要となってくると思われ、満足度や効果を図る仕組みを検討してほしい。ゴールは経営者の喜ぶ姿を見ることであり、そこにどう結び付けていくかという活動を進めてほしい。計画は順調に進んでいるとの印象を受けた。

以上